

研修会参加者数　69名　アンケート回答者　40名　回収率　57％

**Q4．今日の研修会で気付いた入り、考えが変わったことはどのようなことですか？**

・在宅サービスで日々認知症の方を見ていますが、人によると急に進行することがあります（脱水や、薬の飲み忘れなど）。介護をしていても、自宅での様子が分からないことや、気付きが遅れることを反省しています。

・持ち歩いていないので、これから説明できるように持ち歩きたい。

・少ない資源でどのように暮らしていけるのかを考えたい。

・ケアパスの理解と説明できる力が必要。

・認知症になる前の段階が大切。

・広報物の内容を詳しくしり、活用していこうと思いました。

・リーフレット使ってみないといけないと思いました。

・患者様の気持ちが後になってしまうことが多いので、ご家族様の考えと本人の意思を尊重し、現在の活動量を考慮した上で、退院後のことを考えていく必要があると思いました。

・広報物の活用の仕方がわかった。

・リーフレットがあることは知っていましたが、特に活用したことがなかったので、活用していきたいと思います。

・兒玉先生のお話が暖かくてよかったです。

・安心リーフレットを職場においているが、置き方を工夫してみようと思う。

・普及活動の大切さが分かった。

・色々な取り組みをされていることを知りました。

・認知症と精神科医の関わりを知れた。

・リーフレットの存在を知り、活用場面を考えるようになりました。

・普及が難しい。知ってもらえるきっかけ作りを考えないといけないと感じました。

・リーフレットの普及に様々な意見がでて勉強になりました。

**Q5．認知症への取組みについてご意見、ご提案があればご自由にお書き下さい。**

・本人、家族が早期より福祉サービスや病院と上手に関われることが、在宅生活を安心し、長く過ごせる要因だと思っています。

・家族としては、「本人が望める環境をどう支えられるか？」です。今は私や家族も含めて、10年後までに充実した新見市を作って欲しいです。その為には20代、30代、若い世代を含む全ての人の理解や関心が望みです。

・備北地域認知症疾患医療連携協議会が新見でも開かれると聞いて、参加しやすくなると思います。兒玉先生が地域のことをよく考えていただいているのはありがたいと思いました。

・本人・家族が受診するまで時間がかかる。

・認知症であると思われる方でも、独居で、家族は時々会うだけであると認知症と気付きにくい。何とか生活しているが、支援が足りない人が多いと感じる。包括や市がもう少し地域に出て住民の把握をしてほしい。

・認知症の方をよくみかけますが、それに対してまだ知らないことがたくさんあるので、それを勉強できて良かったです。

・専門職への普及啓発。

・啓発活動が足りていないと思う。

・親が認知症であり、今後お世話になることがあると思います。やはり窓口、どこに相談すればいいのかがはっきりわかればうれしいと思います。

・息子さんとの二人暮らしの方が特に困ることが多いので、その方へのアプローチも考えて欲しい。

・この研修会に参加していない医療・介護職の方の理解度が気になります。

・パンフレットに窓口がどこかを分かりやすくしたらよいと思います。

・地域でも声をかけあい、多職種での連携し、グループワークは楽しく出来てよいと思いました。

**Q6．研修会の内容や、会議の企画・運営に対するご意見（グループワークの方法など）があればお書き下さい。**

・初参加の方もいたので、記入方法でよかったものを見本にいくつかあればよかった。

・他職種の方と話ができてよかったです。

・昼間に行う会議も企画して欲しい。

・もう少し早い時間から開催していただくと、活発な意見が出たと思う。

・楽しく参加出来ました。

・いつもですが、グループワーク楽しかったです。

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました。